

ABSTRAK

“PENGUNAAN METODE *AL-BARQY* DALAM UPAYA PENINGKATAN KEMAMPUAN MEMBACA HURUF HIRAGANA”

(Penelitian Kuasi Eksperimen terhadap Siswa kelas X7 SMAN 15 Bandung)

Amaliya Afiefah

0900654

Dalam pembelajaran bahasa Jepang, mempelajari huruf hiragana merupakan langkah awal untuk memudahkan belajar bahasa Jepang lebih lanjut. Penelitian ini dilakukan untuk menambah pengetahuan mengenai metode pembelajaran yang menarik dalam pembelajaran huruf hiragana. Beranjak dari hal tersebut penulis menawarkan sebuah metode pembelajaran yang dirasa bisa menjadi alternatif untuk digunakan dalam pembelajaran huruf hiragana. Metode pembelajaran tersebut adalah Metode *Al-Barqy*. Metode *Al-Barqy* ini biasa digunakan dalam pembelajaran membaca Al-Quran (huruf hijaiyyah). Melihat ada kesamaan pengucapan antara huruf hijaiyyah dan huruf hiragana, dalam penelitian ini penulis mencoba mengembangkan metode tersebut ke dalam pembelajaran huruf hiragana.

Tujuan dari penelitian ini adalah untuk mengetahui seberapa efektifnya penggunaan metode *Al-Barqy* dalam upaya peningkatan kemampuan membaca huruf Hiragana.

Penelitian ini menggunakan metode penelitian eksperimen kuasi dengan desain pretest dan posttest. Adapun instrumen penelitian yang digunakan adalah tes dan angket. Populasi dalam penelitian ini adalah seluruh siswa SMA 15 Bandung tahun ajaran 2012/2013. Dan sampel yang digunakan adalah siswa kelas X SMAN 15 yang sedang belajar bahasa Jepang, selanjutnya diambil 30 orang kelas X7 sebagai kelas eksperimen.

Dari hasil analisis tes diperoleh Nilai dari t hitung adalah 6,67 dan nilai t tabel dengan derajat kebebasan (db) yaitu 29 dengan taraf signifikansi 5% = 2,04 dan 1% = 2,76. Dengan demikian nilai t hitung lebih besar dari t tabel ($6,67 > 2,76$), yang artinya dapat ditarik kesimpulan bahwa terdapat perbedaan yang signifikan antara variabel X dan Y sehingga hipotesis kerja (H_k) diterima dan hipotesis nol (H_0) ditolak. Berdasarkan hal tersebut dapat disimpulkan bahwa metode *Al-Barqy* dapat membantu meningkatkan kemampuan siswa membaca huruf hiragana.

Berdasarkan pengolahan hasil angket yang diperoleh dapat diketahui bahwa sebagian besar siswa mengaku merasa lebih mudah mempelajari huruf hiragana dengan metode *Al-Barqy*.

Sebagai kesimpulan, penggunaan metode *Al-Barqy* dapat meningkatkan kemampuan siswa dalam membaca huruf Hiragana. Oleh karena itu, Metode *Al-Barqy* dapat dijadikan alternatif sebagai metode pembelajaran membaca huruf hiragana

Kata kunci : Metode *Al-Barqy*, huruf hiragana

Amaliya Afiefah, 2013

Penggunaan Metode *Al-Barqy* Dalam Upaya Peningkatan Kemampuan Membaca Huruf Hiragana
(Penelitian Kuasi Eksperimen terhadap Siswa kelas X7 SMAN 15 Bandung)
Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

Abstract

“The Use of Methods *Al-Barqy* in Efforts to Improve Hiragana Reading Ability”

(A Quasi Experiment of Students Class X7 SMAN 15 Bandung)

Amaliya Afiefah

0900654

In learning Japanese, studies letters hiragana was the initial step to ease learn Japanese further. This research was conducted to increase knowledge on learning methods of interest in learning hiragana. Based on that reason, researcher offers a good method so-called *Al-Barqy* that could be an alternative methods for learning how to read hiragana. *Al-Barqy* methods was used in learning how to read *The Quran (Hijaiyyah letters)*. Reasearcher saw these similarity on pronunciation between hijaiyyah and hiragana that in this research she tried to develop this method in learning how to read hiragana.

The purpose of this research was to find out the effectiveness of the *Al-Barqy* methods in learning to read hiragana letters.

This research belongs to quasi experiment. The design of the research was “*Pretest and Posttest Design*”. Researcher used angket and also test to get the data. The research participants of the study were 30 students of the first grade students at X7 as Experimental Group.

From the data analisys, the researcher got *t hitung* 6,67 with db 29 compared with *t* significant level table 5 % = 2.04 and 1%= 2,76. Based on that result, researcher could conclude that *t hitung* (2.67) > *t* table (2.05) in Significant level 5 % which means work hypothesis known as hipotesis kerja (Hk) is accepted and null hypothesis known as Hipotesis nol (Ho) was refused. That result mean that *Al-Barqy* methods in hiragana reading learning was effective.

Based on the result of angket analysis could be got that students were interested in the learning how to read hiragana through *Al-Barqy* methods because it made students easier to read Hiragana.

As the result, the using of *Al-Barqy* methods in hiragana reading learning could improve the students ability in reading hiragana letters. Therefore, *Al-Barqy* can be an alternative methods in learning how to read Hiragana letters.

Keywords: *Al-Barqy* methods, hiragana letters

Amaliya Afiefah, 2013

Penggunaan Metode *Al-Barqy* Dalam Upaya Peningkatan Kemampuan Membaca Huruf Hiragana (Penelitian Kuasi Eksperimen terhadap Siswa kelas X7 SMAN 15 Bandung)

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

「ひらがなを読む能力を向上するための *Al-Barqy* 方法の使用」 (SMAN 15 バンドンの高等学校一年生に対する実践研究)

アマリヤ・アフィファ
0900654

要約

日本語を勉強する際に、ひらがなを勉強することは最初の方である。本研究はひらがなの学習方法に関することである。そのため、*Al-Barqy* という方法は一つのアラビア語の *Al-Quran* を読めるための学習方法である。研究者はひらがなの学習にこの方法を使ってみることにした。

本研究の目的は、*Al-Barqy* 方法でひらがなを勉強するの有効性を調べることである。本研究の方法では実践研究であり、研究のデザインは「事前テストと事後テストのデザイン」である。研究者はアンケートを使い、データを得るためにテストをすることである。対象者は、SMAN 15 バンドンの高等学校一年生の X7 クラスである。

データの分析から、t 得点=6,67、それに $db=29$ 、t 表(5%)=2,04、t 表(1%)=2,67ということが分かった。t 得点は t 表より高いから、作業仮説は受け入れて、ゼロ仮説は拒否された。

結論としてはひらがな学習の *Al-Barqy* 方法が効果的であることが分かる。またアンケートの結果は対象者が *Al-Barqy* 方法でひらがな勉強することが優しく、面白くなると言われている。

つまり、ひらがなの学習に *Al-Barqy* 方法の使用は、ひらがなを読む能力を向上することができる。したがって、*Al-Barqy* 方法はひらがなを読む択一的な学習方法になることができる。

キーワード : *Al-Barqy* 方法、ひらがな

A. はじめに

人間にとっては情報を得るために読む力が大事な活動である。昔から読む力の活動を通じて色々なことが分かった。しかし、読む力にはやさしい過程などない。様々なシンボルがあり、「字」といわれている。

現在、日本語は高等学校でよく教えられている。日本語を学習するのは難しい。勉強するはじめに、学習者は字から勉強することが必要である。日本語の文字はひらがな、カタカナ、漢字、ロージという字がある。だが、日本語を勉強するためにひらがなはもっとも必要である。ひらがなを読めば、漢字を勉強することができ、日本から色々な情報を集めることができる。高等学校ではひらがなが一年生から教えられているが、ひらがなの読む能力がまだまだであった。事前テストの結果によると在来の方法が余り満たされないということが分かった。

その一方、*Al-Quran* を読めるためにムスリムとしてアラビア語の字を読めなければならない。そのため、様々な学習方法があり、その中に *Al-Barqy* というアラビア語の字を読めるための学習方法がある。*Al-Barqy* 方法は口授で聴覚と視覚を集中のためのという学習方法である。アラビア語の字は日本の字と比べ、発音が似ていると思う。例えば、「か」は「ك」の発音が似ている。

上の説明した背景および理論によって、研究者は『ひらがなを読む能力を向上するための *Al-Barqy* の方法の使用 (SMAN 15 バンドンの高等学校一年生に対する似実験研究)』を研究することになる。

B. 研究の問題

本研究の問題はつぎのようである。

1. *Al-Barqy* 方法を使用する前に対象者のひらがなを読む能力はどうである。
2. *Al-Barqy* 方法を使用した後に対象者のひらがなを読む能力はどうである。
3. ひらがなを読む能力を向上させる努力の *Al-Barqy* 方法の有効性はどうである。

C. 研究の目的

本研究の目的はつぎのようである。

1. *Al-Barqy* 方法を使用する前に対象者のひらがなを読む能力を知ることである。
2. *Al-Barqy* 方法を使用した後に対象者のひらがなを読む能力を知ることである。
3. ひらがなを読む能力を向上させる努力の *Al-Barqy* 方法の有効性を知ることである。

D. 研究の理論

ひらがなの文字

KBBI (インドネシア語の辞書) から見ると、言語というのは「人々が協力し、対話するために表音文字の市システム」という意味である。このシステムの中には言語的と文語的である。文語的は文字を使い、人がこの文字からいつでも情報を得ることができる。

日本語の文字の中に漢字、ひらがな、カタカナ、またローマ字ことである。日本語を勉強する際にひらがなを勉強するのがもともと必要なので、ひらがなを読めば、漢字を勉強することもできる。最初、日本語の文語のシステムは漢字の中国の文語のシステムを全く採択したことだが、日本語の読み方が基本的に違うので、全く採

扱できないことである。この問題を解決するために、中国の文字から日本語の文字に様々な適応することであった。語頭は漢字で、ひらがなカタカナは接辞になることである。

ひらがなの文字は46個である。ひらがなの形は柔らかく、女の文字と言われている。ひらがなは次のように使用する：

1. 和語、漢語、混種語の部分を書くことを使用する。
2. 用言の部分を書くことを使用する。
3. 助詞を書くことを使用する。
4. 漢字で書かない接頭と接辞を書くことを使用する。

Al-Barqy 方法

「Al-Barqy」は「Barqy」から「雷火」といういみである。Al-Quran を早く読めるために、Al-Barqy 方法を6時間ぐらい使い、Al-Quran を読めることと言われている。Al-Barqy 方法の中に Kata Lembaga ということがあり、アラビア語の文字が一つずつこの Kata Lembaga に建ち、インドネシア人には覚えやすくなることである。

例：

ي	ك	هـ	م	ج	ر	د	أ
YA	KA	HA	MA	JA	RA	DA	A

AlBarqy 方法の「Kata Lembaga」

インドネシア人にとって、この模様は読めやすいことである。

Al-Barqy 方法のテクニックは次のようにを使う。

1. 集中。
2. 譲渡。
3. モールス符号。
4. 駱駝のステップング。

ひらがなを勉強するため、研究者は Al-Barqy 方法を採択してみ、ステップは次のようである。

1. *Al-Barqy* 方法のひらがなの特別な表を作り、対象者が勉強している時この表を使うことである。
2. 研究者は模様を説明し、例えば「あいうえお」、「さしすせそ」と口授してくれる。
3. 授業をはじめに研究者がこの模様を対象者と一緒に繰り返す。
4. 模様が分かった後、対象者は大声で繰り返しながら、文字を一つずつ見る。

E. 研究の方法

本研究に用いるされた研究の方法は実践実験ということである。本研究のデザインは「事前テストと事後テストのデザイン」である。対象者は 2012/2013 年度 SMAN 15 の高等学校であり、サンプルは一年生である。それで、研究のサンプルは *purposive sampling* の技術を使用した。そのサンプルは一年生の X7 クラス 30 名である。データを得るために、テスト及びアンケートである。テストは二回行い、事前テストと事後テストである。事前テストは *Al-Barqy* 方法を使用する前に対象者のひらがなを読む能力を知るためであり、事後テストは *Al-Barqy* 方法を使用した後を行い、*Al-Barqy* 方法を使用した後の結果を知るためである。また、アンケートは *Al-Barqy* 方法に対する対象者の印象や感想を知るためである。研究のデザインは次のようである。

O ₁	X	O ₂
----------------	---	----------------

説明：

O₁ : 事前テスト (*Al-Barqy* 方法を使用した後に対象者のひらがなを読む能力)

X : *Al-Barqy* 方法の使用

O₂ : 事後トテスト (Al-Barqy 方法を使用した後に対象者のひらがなを読む能力)

F. データの分析

- テストのデータの分析
 1. t 得点を計算する表を作る

No	X	Y	X ²	Y ²
(1)	(2)	(3)	(5)	(5)
1				
2				
3				
...				
Σ				
M	(8)	(9)		

2. 平均点を計算する公式

$$M_x = \frac{\sum x}{N} \quad M_y = \frac{\sum y}{N}$$

3. 標準偏差を計算する公式

$$Sdx = \sqrt{\frac{\sum x^2}{N}} \quad Sdy = \sqrt{\frac{\sum y^2}{N}}$$

4. t 得点を計算する公式

$$t_o = \frac{M_x - M_y}{\sqrt{\frac{Sdx^2 + Sdy^2}{n-2}}}$$

5. t 得点に対する解釈

$$db = N - 1$$

t 得点 > t 表 H_k (作業仮設) は受け入れた

t 得点 < t 表 Hk (作業仮設) は拒否された

- アンケートのデータの分析

$$P = \frac{f}{n} \times 100\%$$

アンケートのデータは解釈に用いられる手引きは次の表に示している。

0%	いない
1% - 5%	ほとんどいない
6% - 25%	一部いる
26% - 49%	半分以下
50%	半分
51% - 75%	半分以上
76% - 95%	かなり多い
96% - 99%	ほとんど全部
100%	全部

G. 結果及び解釈

計算の結果に基づき、t 得点 = 6,67、それに db = 29、t 表(5%) = 2,04、t 表(1%) = 2,76 ということが分かった。T 得点は t 表より高いから、作業仮設は受け入れて、ゼロ仮設は拒否された。つまり、*Al-Barqy* 方法を使用する前に対象者のひらがなを読む能力は *Al-Barqy* 方法を使用した後に対象者のひらがなを読む能力と有意味の違いがあったのである。

一方、アンケートを分析した結果によると、半分以上対象者は *Al-Barqy* 方法を使用がひらがなを読むことが分かりやすく、面白かったといわれる。そして、対象者はひらがなを読む能力が上がったといわれる。つまり、対象者は *Al-Barqy* 方法を気になるのである。

H. おわりに

結論

1. *Al-Barqy* 方法を使用した前、対象者のひらがなの読む能力の平均点は 49,8 点である。一方、*Al-Barqy* 方法を使用した前、対象者のひらがなの読む能力の平均点は 77,3 点である。この結果によると、*Al-Barqy* 方法を使用した後に対象者のひらがなの読む能力は *Al-Barqy* 方法を使用する前に対象者のひらがなの読む能力より高いということが分かった。
2. データの分析の結果によると、T 得点は t 表より高い ($6,67 > 2,76$) から、作業仮設は受け入れて、ゼロ仮設は拒否された。*Al-Barqy* 方法を使用する前に対象者のひらがなの読む能力は *Al-Barqy* 方法を使用した後に対象者のひらがなの読む能力と有意味の違いがあったことが分かった。
3. アンケートのデータの分析によると、半部以上対象者は *Al-Barqy* 方法を使用がひらがなの読むことが分かりやすく、面白かったといわれる。それに、対象者はひらがなの読む能力が上がったといわれる。

今後の課題

1. *Al-Barqy* 方法はひらがなを教える時択一的な方法になる。
2. コントロールグループでもっと実験研究を行う。
3. *Al-Barqy* 方法を使う際に、黒板にひらがなを書くより Infocus を使うのほうがいいである。

参考文献

- Arikunto, Suharsimi. 2010. *Prosedur Penelitian Suatu Pendekatan Praktik*. Jakarta : Rineka Cipta.
- Sudjianto & Ahmad Dahidi. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Bekasi : Kesaint Blanc.
- Sulthon, Muhadjir. 1999. *Seluk Beluk Al-Barqy*. Surabaya : Tidak Diterbitkan.
- Sutedi, Dedi. 2009. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang (Panduan bagi Guru dan Calon Guru dalam meneliti Bahasa Jepang dan Pengajarannya)*. Bandung : Humaniora.
- Tim Penyusun Kamus Pusat Bahasa. 1996. *Kamus Besar Bahasa Indonesia*. Jakarta: Balai Pustaka.